

南三陸町総合計画審議会令和5年度第3回専門委員会議 会議の概要

1 日 時：令和5年6月29日（木）午後6時から午後8時10分

2 場 所：南三陸町役場2階会議室

3 出席委員：12名

及川和人委員、小野寺成明委員、工藤大樹委員、工藤泰彦委員、佐藤久一郎委員、高橋裕香里委員、高橋吏佳委員、田中郁子委員、芳賀英則委員、畠山扶美夫委員、山内義申委員、吉田信吾委員（氏名カナ順）

4 欠席委員：2名

伊澤仁寿委員、星一敏委員（氏名カナ順）

5 事務局：企画課 課長 岩淵武久

企画課 課長補佐兼政策調整係長 阿部好伸

企画課 佐藤悠

6 オブザーバー：ランドブレイン株式会社仙台事務所 姜守範、植野新

7 会議次第 1 開会

2 内容

（1） 令和5年度第2回南三陸町総合計画審議会専門委員会議の振り返りについて

（2） ワークショップ（南三陸町第3次総合計画基本構想骨子案について）リーディングプロジェクトについて

3 その他 令和5年度第4回南三陸町総合計画審議会専門委員会議の開催日程について

4 閉会

午後6時開会

（事務局）

定刻となりましたので、ただ今から南三陸町総合計画審議会令和5年度第3回専門委員会議を開会いたします。

本日の会議は、お手元に配付をしている次第に基づき進行いたします。1件目は、前回会議の振り返りと、2件目はリーディングプロジェクトについて、ワークショップ形式で議論を行っていただきます。はじめに、内容（1）の令和5年度第2回南三陸町総合計画審議会専門委員会議の振り返りについて、事務局より説明をいたします。

前もって資料を送付させていただいておりましたが、A3サイズの「1まちづくりの課題について（事務局案）（専門委員会議での意見等）」、「2まちづくりの理念について（事務局案）（専門委員会議での意見等）」、「3将来像について（事務局案）（専門委員会議での意見等）」をご覧ください。この資料は前回会議の中で、まちづくりの課題、まちづくりの理念、将来像の3点を事務局案として皆様に提示をいたしましたが、その部分が左側に記載されています。向かって右側の部分が前回会議で皆様からいただいた意見等を項目ごとに集約したものです。

続いて、「南三陸町第3次総合計画基本構想骨子事務局(案)」と「まちづくりの理念と将来像(案)」ですが、こちらの資料は、前回会議でお示しをした事務局案の中で、朱書きをしている部分が前回会議で皆様からいただいた意見を踏まえ、新たに整理をした方がよい箇所として追加をいたしました。しかしながら、この内容で確定ということではありません。前回会議のまとめとして、参考までにご覧ください。最終的な整理は行っていない状況ですのであらかじめご理解をいただければと思います。

ここまで資料に沿ってご説明をいたしましたが、前回会議の内容が反映されていなかったり、不明な点はございますか。会議が終わった後でも構いませんので教えていただければ幸いです。この後、リーディングプロジェクトの内容に入りますが、こちらはワークショップ形式で行っていただくことになりますが、前回会議のまとめに加え、本日の会議のまとめを整理したものを、次回会議の議題とさせていただきます。

(委員)

まちづくりの理念について、タイトルが「自然の恵みを大切にするまちづくり」の「この豊かで貴重な自然を未来に向けて大切に守り使いながら、」という部分だが、正しくは、「この豊かで貴重な自然を未来に向けて大切に守り活かしながら」になるのではないだろうか。自然を使うという表現はおかしいので訂正していただきたい。

(事務局)

訂正いたします。他に質問等がある方はいらっしゃいますか。

質問なし

(事務局)

質問がないようであれば、次のリーディングプロジェクトの検討を行いたいと思います。

ここからは、前回会議に続き、町の総合計画策定支援業務を受託していただいておりますランドブレイン株式会社の姜さんと植野さんにファシリテーターとして参画していただきます。

それでは、よろしくお願ひいたします。

姜氏、植野氏挨拶

専門委員が2グループに分かれ、ワークショップ形式で話し合いを行った（約90分間）

午後8時

(オブザーバー)

それでは、グループで話し合った内容を発表していただきます。

(Aグループ代表委員)

Aグループは、リーディングプロジェクトとして、「町外とのつながりを活かす」、「人づくり」、「環境を活かす」の3つのテーマを掲げた。

「町外とのつながりを活かす」とした理由は、東日本大震災後、町外の方や団体とのつながりが深くなつたためである。企業、大学、ボランティアの方及び海外の方々等との良好な関係性をこれからも維持していくには、感謝の気持ちを忘れないことが大切であると感じる。そのためには、感謝祭等を開催し、改めて感謝の気持ちを伝えることが重要。双方の関係性が良くなるようなことを考え、町全体が一丸となり協力していくことが求められる。

次に「人づくり」とした理由は、若者が地元離れをしているためである。生涯スポーツ、コミュニティ、子育て、学び、Uターンといった要素を上手く活用することが人づくりにつながる。学びについては、町外学生がインターネットを活用して、アルバイト感覚で町内の子どもたちに勉強を教えるという経験を活かした学習支援を行ったり、Uターンについては、大人が子どもに対しこの町に戻りたいと思えるような教育をすることや雰囲気づくりをしていくことが大切である。また、町には、様々なコミュニティがあり、イベントを開催しているが、そういう情報を一元管理していく必要がある。出会いの場だったり、カリスマ性のあるリーダーを育てたりすることが、定住や子育ての面にもつながってくると考えている。

最後に、「環境を活かす」とした理由は、南三陸町は、山と海があるのでそれをどのように利用していくかを考えなければいけないと思ったからだ。特に山に関しては、管理用の道路を作れば林地残材の有効活用をすることができ、廃熱の活用にもつながるのではないか。加えて、南三陸町の自然体験では、他の地域では体験できないことができる所以積極的に活用すべきであると感じる。

以上です。

(Bグループ代表委員)

Bグループは、リーディングプロジェクトとして、8つの項目に分けた。

1つ目は、「環境変化に立ち向かう」である。世界規模の話であることから、町だけでは解決できないことでもあるが、その変化に対応していくということで、未活用資源の活用にシフトチェンジしていくべきではないかという意見が挙げられた。

2つ目は、「若い世代の就業・くらしの確保」である。地域に残ってもらう方や来てもらう方、特に若い世代になるが、暮らしていく給与水準や幸福度をどのようにして作っていくかということを考えなければならない。

3つ目は、「高齢者の活躍の場」である。シルバー人材センターや高齢者の方が健康年齢等を若くして様々なコミュニティに参加できるような環境を整えなければならないという意見があった。

4つ目は、「まち全体の人材確保」である。積極的に町から情報を発信し、町に人が残ったり、来てもらえるようになれば良いという意見が挙げられた。

5つ目は、「産業の維持と交流」である。様々な分野で担い手が不足しており、これを解消するためには、行政に任せのではなく、民間企業等が有志で活動を行っていいとも良いのではないかとの意見があった。担い手の確保や高齢者の負担の軽減を行っていくことで、行政の負担も縮小できるのではないか。

6つ目は「観光の振興」である。この町の人口は年々減少傾向であるが、移住や定住をしていただける方を増やす取組みが求められる。個人的な話にはなるが、この10年は感謝や復興というテーマで観光に取り組んできたが、いかに町を訪問し、お金を使ってもらい、外貨を獲得していくかが今後重要になるとを考えている。南三陸町は教育旅行と言われる、全国、世界から子どもたちが学びに来る地域になっており、世界に誇れる資源を有している場となっていることから、その点の推

進を図ったり、東日本大震災前は、スポーツ合宿などが盛んに行われていたので、復興を契機に再度誘致を行っていければと思う。

7つ目は「コミュニティの再構築」である。仮設住宅から暮らししが変化し、新たな課題が出ていくということで、コミュニティを再構築していかなければならないという意見が挙げられた。

8つ目は「子育て・教育環境」である。生まれる子どもたちも少なく、教育の質も良くないという意見が挙げられた。子育て・教育環境の充実をリーディングプロジェクトとして掲げても良いのではないかと感じている。すべての分野でプロジェクト連携し結びつくようにしなければならない。

以上です。

(オブザーバー)

ありがとうございました。

両グループとも、限られた時間の中で、素晴らしい発表でした。

(事務局)

皆さん、本日も長時間、大変お疲れ様でした。

最後に事務局より、第4回専門委員会議についてお知らせします。日程は7月中旬を予定しております。7月21日の金曜日はいかがでしょうか。

異議なし

(事務局)

それでは、第4回専門委員会議は7月21日の金曜日に役場2階会議室で開催いたします。

後日、開催通知と事前資料を送付いたしますのでよろしくお願いいたします。本日も遅い時間まで参加をいただきありがとうございました。

以上で、第3回専門委員会議を終了いたします。大変お疲れ様でした。

午後8時10分終了